

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

a

現代の子供に、君がいちばんほしいものは何だい、ときいてみると、いちばん多い答えはこうである。
ほしいものはお金。

ほかのどんなものより、お金に憧れ、お金を手に入れたがっているみたいなのだ。ア、お金の次に人気があるのが、土地とか、土地つき一戸建ての家、だったりする。国土の狭い日本では（特に人口密集の首都圏では）、土地というのはお金の運用法としてもつものようなところがあるから、土地がほしい、というのはお金がほしいというのとほぼ同じ意味である。つまり、ひたすらお金がほしいのだ。

もちろん、お金は誰もがほしいなと思ってしまう素敵なものだ。お金を持っているということは富があるってことで、富があれば生活に困らなくてすむ。いろいろな欲望をお金の力で満たすことができ、イ、幸福が手に入るとも考えられる。資本主義国においては、お金とは権力の具体的な形かもしれない、という気がするくらいだ。

しかし、まだ幼い子供までもが、ほしいものを問われて迷いなく、お金、と答える社会というのは、ちょっと変である。その歳で、夢もロマンもなくひたすらお金に憧れているのかと鼻白む。

少なくとも、四十年前の子供はそんなふうには答えなかった。これは私が記憶していることで、確かである。
ほしいものは何か、ときかれたら、ものを答えるのが普通だろうと②思っていた。

たとえば、グローブがほしい、なんて言う子がいた。これは私よりちょっと年上の子かもしれない。戦後、子供の遊びとして野球が大いにはやったが、グローブを買ってもらえる子はそんなにいなかった、ということからの憧れである。③その頃は、布で手造りしてボロボロのグローブまがいを使ってキャッチボールをしている子がよくいた。

私たちよりちょっと後の子だと、トランジスタ・ラジオがほしい、なんて言ったかもしれない。私は中学生の時、ポータブル・プレーヤー（レコードをかける小型の蓄音器がほしかった。④それをやっとなんて手に入れたけど、買ったレコードは三、四枚だった。

それから私は ※1 謄写版がほしくて、中学三年生の時に小遣いをためて買った。それはBひとえに私が変人だからであって、そんなものをほしがる子は滅多にいなかった。 ※1 謄写版 簡単な印刷機
とにかく、昔の子供はものをほしがったのだ。

言うまでもなく、ものを買うためにはお金が必要だ。グローブがほしいのに買ってもらえないというのは、家に余分のお金がないからである。だからお金さえあれば、グローブだってバットだって買ってもらえるだろう。

でも、何がほしいときかれて、お金と⑤答えないのがかつての普通の子供だった。お金というのは、ほしいものを買うための手段として必要なもので、ほしいという目的物ではないのだから。

それに、ほしいものとして、お金のことを言うのははしたないことだ、という意識が、昔の子供の頭の中にあつたような気がする。ほしいものが手に入らないのは悲しいことだが、そのわけはお金がないからだ、ウ、お金がほしい、と考えるのは、一番の稼ぎ手であるお父さんに悪いことだという気もした。そう考えるのは、お父さんが不甲斐ないんだ、という批判を含んでいると思ったのだ。昔の子供がなんとなくそう考えて、お金がほしいと言わなかったのは、親からも、社会からも、⑥そう教育されていたからである。昔はよく、こういう意見を耳にしたものだ。

お金がいくらあっても幸せは買えないんだよ。

むしろ、少々お金を持つている人間が、無神経にそのことを自慢する醜さを見てごらん。金の亡者になってしまった人は、人間として一番大切な心の美しさを失うんだよ。

そういう考え方がさんざん耳に入ってくるのだった。そして社会もそう言っている。エ、映画ひとつとつてみても、『名もなく

貧しく美しく』とか『にあんちゃん』とか『とうちゃんのポーがきこえる』とか、貧しい美しさを盛んに描き出していた。

金持ちになることより、清く美しく生きることのほうが尊いんだ、という教育が社会全体によって行われていて、だから子供は、お金がほしいなんていうのはしたくないことは言えなかった。

なぜ社会がそんな教育をしていたかというと、まだ世の中全体が貧しかったからである。貧しいからこそ、その中で誇りを持って生きるためには何を大切にすべきか、の教育があった。

なのに、一九六〇年代以降の高度経済成長の時代に突入し、⑥だんだん生活が楽になっていくにつれて、そういう教育が忘れられていった。だんだん、消費は美德である、ということになったのだ。

ものが豊かに買えるようになるにつれ、人々は清らかな心の美しさのことを言わなくなっていくた。そして、ひとつ手に入れれば次がほしくなる、とばかりに、物質の所有に憧れるようになっていったのだ。

一見不思議なことのようにだが、豊かになればなるほど、人々はものを多く手に入れることに夢を持つようになり、お金が好きになっていったのである。

現代の子供がお金をほしがるのは当然のことである。社会が⑦寄ってたかってそういう教育をしているのだから。

お母さんはマイホームがほしいから、お父さんにもっと稼いでほしいと言っている。お父さんも、どんなマネーゲームがいちばん有利かというようなことばかり考えている。

社会全体の風潮が、あーもつとお金がほしい、ということばかり言っている。雑誌の広告を見ても、特集記事を読んでも、テレビのCMを見ても、どうすれば金が儲かるかということばかり言っている。

だから子供は、何よりもお金がほしいのだ。私たちが子供にそういう考え方を教育したのである。

『行儀よくしろ』 清水 義範著 (二〇〇三年)

問一 空白部ア～エに当てはまる言葉を次から選んで番号で答えなさい。えなさい。

- 1 とりあえず 2 だから 3 しかし 4 むしろ 5 たとえば 6 そして

問二 傍線部A～Dについて、品詞を答えなさい。

問三 a には見出しが入ります。適切だと思うものを選んで番号を答えなさい。

- 1 お金と家族の役わり 2 お金と社会の教育力 3 お金と子供の心 4 お金がほしいということ

問四 波線部Aの「鼻白む」の読み方を書き、言葉の意味を選んで答えなさい。

- 1 感動する 2 驚く 3 興ざめする 4 楽しくなる

問五 傍線部②「思っていた」の主語を答えなさい。

問六 傍線部③・④が指し示すことがらを答えなさい。

問七 傍線部⑤「そう教育されていたから」について、どんな教育でしたか。文中の言葉で答えなさい。

問八 傍線部⑥「だんだん生活が楽になっていく」について、世の中はどうなっていったのでしょうか。答えなさい。

問九 傍線部⑦「寄ってたかって」の意味を答えなさい。

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい。(送り仮名が必要な場合もあります)

- ①嗅覚やミカク
- ②スミヤカニテイシュツする
- ③ケンケツに協力する
- ④キケンナジヨウキヨウ
- ⑤多くの幼児がツドウ

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ①傍若無人
- ②診察室に案内する
- ③豊かな感受性
- ④最近の社会風潮
- ⑤気管支の内側

四、それぞれの意味をあらわす言葉をあとの記号から選んで書きなさい。

- ①それぞれの配置
- ②仕組みや仕掛け、装置
- ③姿、形、画像、映像
- ④専門的な技術やその蓄積、または情報や経験
- ⑤ものの変化、ものの変型・変種など

- ㊦メカニズム
- ㊧マイスター
- ㊨レイアウト
- ㊩アクセス
- ㊪イメージ
- ㊫ノウハウ
- ㊬スケール
- ㊭バリエーション

作文問題

題「協働について」

四百字程度の作文を書きなさい。